NPO法人まちの縁側育くみ隊
公益社団法人
長寿社会文化協会 WAC
WONDERFUL AGING CLUB

独立行政法人福祉医療機構 社会福祉振興助成事業

訪ねてみよう
あなたの「まちの縁側・居場所」 AICHI COMMUNITY CARE

コミュニティカフェガイドブック 愛知県版

NPO法人 まちの縁側育くみ隊
公益社団法人
長寿社会文化協会 WAC

こんなまちの縁側・居場所になったらいいな

大切にしたいこと12カ条

1 気軽にきて気軽に帰れる

2 一人ひとりがホーっとできる

3 老若男女がつどう場・かかわりある場・出会う場

4 共につくり、飲み、食べ、歌い、話し、笑い、心晴れる場

5 人と人が交差する自由空間

6 多様な価値観を相互に受け止め、認めあえる相互理解の場

7 友だちを作る（人的ネットワークを広げる）

8 相互にかかわる中からお互いに気づきあう場

9 自己表現・感動を分かちあう場

10 もっと素敵な生き方にチャレンジするきっかけをもつ

11 あらゆる情報の交差点

12 地域の中で起きているさまざまな問題解決の端緒の場

AICHI COMMUNITY CAFE

コミュニティカフェ開設や交流の全国センターの役割を担う

コミュニティカフェが全国に広がってきました。高齢者の気軽な出会い、子育てママの交流、障害者の協働――いろいろな思い、目的で始まった居場所作りの活動。それが地域再生、まちづくりにつながろうとしています。

WACは、早くからコミュニティカフェの開設支援や調査の活動に取り組んできました。新潟市の河田珪子さんが提唱した「地域の茶の間」に注目して同様の「茶の間」作りの支援に着手し、2002年から04年にかけて新潟と広島両市で地域の茶の間についてのシンポジウムを開きました。

2007年12月には、WACが編集した単行本「コミュニテイ・カフェをつくろう！」を学陽書房から発行。この時から、各地のさまざまな出会いの場を「コミュニティカフェ」と総称しています。

翌08年から、コミュニティカフェを成功させた実践者から運営ノウハウを学ぶ研究会をスタートさせました。カフェの現場で開催するなど工夫を凝らし、13年末までに34回と回を重ねています。

10年には富山と熊本の両県でカフェのガイドブックも作成しました。また、全国のカフェの主宰者や運営希望者、研究者、行政関係者などが一堂に会する大会を09年に東京で開き、その後も毎年のように関係者の交流会を開いています。

こうして WACはコミュニティカフェの全国センターに近い役割を果たしてきており、今回の WAMの居場所（カフェ）作り支援事業もその一環と位置付けています。

公益社団法人長寿社会文化協会（WAC）
常務理事
浅川 澄一
03-5405-1501

こんなまちの縁側・居場所になったらいいな

土から勢いよく生きる力を表す青菜、水辺でワクワクの男の子たち、うさぎと瞳の丸さを競いあう女の子、井戸掘りに心地よい汗を流すお父さん、香りのいい紅茶を間に歓談するお母さん、玄米ごはんと有機野菜に舌鼓をうつ若者、日だまりのネコとおばあさん、笑いヨガを多世代の人々と楽しむおじいさん、自分らしくまったりと振るまう障がい者、さざ波のようにひろがるヒヨドリのさえずり。ここには生きとし生けるものみんながつながりあう「ココロの縁が輪」がひそやかに息づいています。それがまちの縁側・コミュニティカフェ。

愛知・名古屋からは、そんな想いをこめた冊子を心をこめてつくりました。とともに、全国のこれまでの取り組みの中から、まちの縁側・居場所づくりで共通して大切にしたいことを12カ条としてくくりだしました。今後各地域の個性的輝きを帯びた居場所が、交流し育ちあえることを切望します。

NPO法人 まちの縁側育くみ隊
代表理事
延藤 安弘
052-201-9878

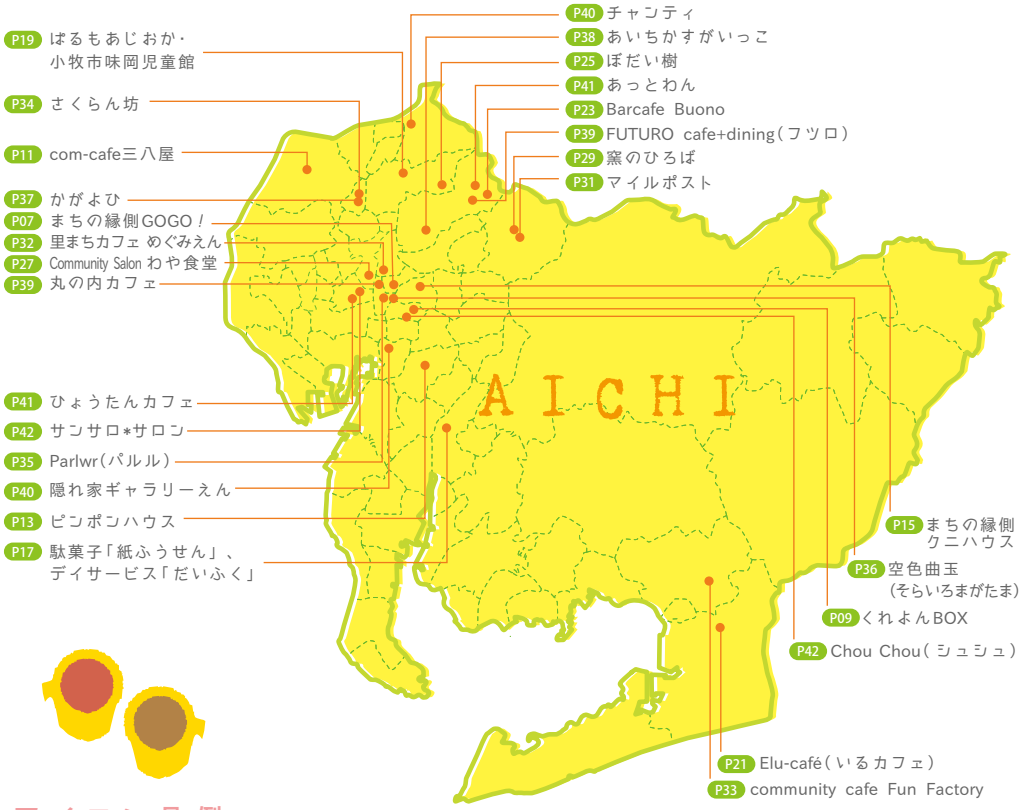
CONTENS

01 こんなまちの縁側・居場所になったらいいな
03 公益社団法人 長寿社会文化協会からのメッセージ
04 NPO法人 まちの縁側育くみ隊からのメッセージ
05 目次
06 マップ　アイコン凡例

07 まちの縁側GOGO!
09 くれよんBOX
11 com-cafe三八屋
13 ピンポンハウス
15 まちの縁側クニハウス
17 駄菓子屋「紙ふうせん」、デイサービス「だいふく」
19 ぱるもあじおか・小牧市味岡児童館
21 Elu-café（いるカフェ）
23 Barcafe Buono
25 ぼだい樹
27 community Salon わや食堂
29 釜のひろば
31 マイルポスト
32 里まちカフェ　めぐみえん
33 community cafe Fun Factory
34 さくらん坊
35 Parlwr（パルル）
36 空色曲玉（そらいろまがたま）
37 かがよひ
38 あいちかすがいっこ
39 FUTURO cafe + dining（フツロ）
39 丸の内カフェ
40 隠れ家ギャラリーえん
40 チャンティ
41 あっとわん
41 ひょうたんカフェ
42 サンサロ*サロン
42 Chou Chou（シュシュ）

43 神奈川県版 発行の思い
44 石川県版 発行の思い
45 京都府版 発行の思い
46 編集後記

AICHI COMMUNITY CAFE MAP



アイコン凡例

内容

- 飲食：飲食サービスをしている。
- 情報：地域の人に必要かつ有益な情報を受・発信している。
- 交流：地域の人々の交流の場となっている。
- 学び：必要なことを学べる講座や生涯学習の場となっている。
- 就労：就労が難しい人の働く場や訓練の場となっている。
- 販売：地域で手作りされているもの、生活に役立つものなどが販売されている。
- サロン：介護保険や障害者手帳の有無にかかわらず、居場所として利用できる。
- まちづくり：地域をどうしていくかなどを話し合う場となっている。
- 相談：悩みや困りごとを地域の専門家に相談できる。
- 芸術：アートの展示や演奏会など芸術的な催しを自ら行っている。

利用者・対象者

- 高齢者：高齢者
- 子ども：子ども単独や、子どもと親
- 障がい者：障がいがある人や支援者
- 若者：若い世代

まちの縁側 GOGO!

交流 サロン 芸術 高齢者 子ども 障がい者

素敵な生き方にチャレンジできるところ

緑の蔦が這い、季節感のある表情を街角に投げかける「まちの縁側 GOGO!」は、「にれのこみち」（名古屋市コミュニティ道路第1号）にあります。すこし狭い居間のような空間は「音楽とスポーツ、文化がいっぱい！」で弾けんばかり。手作りの会、笑いヨガ、懐かしの映画鑑賞会、パソコン相談室、等々。特に人気なのは好きな曲を持ち寄ってみんなで歌う「ほのぼのリハーサル」。週に1回は皆で練習し、月に1回は近くのイタリアンレストランでコンサート。発表の場があるから、張り合いがあると、生き生きライフを謳歌するシニア世代で賑わいます。GOGO! 側が企画する取組以外にも、時間で部屋を借りることができるので「得意技を活かしてちょっとした教室をしたい」「新しいことにチャレンジする勉強会を開きたい」など自分の企画を気軽に実践できます。キッチンとバリアフリートイレも整備されており、様々な人がふらっと寄れる気軽な居場所として地域に定着しています。

試合開始 GOGO!

主宰の永井充さんは、地域の中心にある小学校を、子育ちとまち育てがつながる拠点にしたいと思っています。毎週土曜日には GOGO! を飛び出して葵小学校で少年少女野球ソフトボールをしています。「スポーツを通して、子どもたちのための環境を整えていくことが、地域を受け継いでいく当事者としての住民の責任です」と永井さんは言います。

【思いを受け継ぐ、担い手になる】

永井さんは、愛知県立旭丘高校音楽部の先輩にあたる浅井幸三さん（中日新聞社記者として活躍）の遺産である１万点に及ぶ音楽資料を 2002 年に受け継ぎました。そして、2011 年には NPO 法人まちの縁側育くみ隊の運営する空間を受け継ぎました。捨てられてしまうかもしれなかった資料と空間を受け継いで、地域に開く担い手になることで、地域の多世代の人たちや旭丘高校音楽部同窓生らの生き甲斐の場として、音楽と笑い声がひろがる場を育てています。

名古屋市東区代官町 29-18 柴田ビル１階／ TEL:052-930-2505
営業時間：10:00〜16:00（時間外でも相談に応じます）／休：土・日／ HP：engawagogo.exblog.jp

くれよんBOX

飲食 交流 就労 高齢者 障がい者 若者

まったり、ゆったり、しぜんたい！

くれよん BOXは、障がいを持った仲間達の「当事者の立場から情報を発信していく活動がしたい」、「みんなが集まって楽しめる場がほしい」という思いで、「AJU福祉情報誌」の編集委員が中心となり物件探しからスタート。人のご縁で昭和区で住宅を見つけ改修し、2001年4月小規模作業所として始まりました。ゆっくりじっくりとカフェに仕立てていきました。活動のポリシーは「大切なのは、我をおさえつつ、我を出す」「無理しない、無茶しない」こと。職員の山口耕平さんの「それでも、やっていけますよ」という言葉には、思いやりと確かな実行力が感じられます。ランチはタコライス・ロコモコ・ナポリタンどれも絶品です。

ジネンカフェ・プロジェクトとは

ジネンカフェは、月に一度ゲストを招いて生き方のヒントを得る活動です。また年に１回拡大版も開催し、発信と共感の波動を広めています。「ジネン」＝自然＝ありのまま、あるがまま。他人をありのまま、あるがままに受け入れられれば、誰もが「自分らしく生きていける」はずです。障がいの有る、無しに関係なく「自分らしく」生きている人を招いてお話を伺う中から理解を深め、互いを受け入れ開かれた関係性を育んでいます。生きづらさを感じているなら、新たな生き方のヒントを見つけに行きませんか？

【人が「自分らしく」生きるための３本柱】

1: 人の意識の変容　　さまざまな人をそのまま受容する心を持つ。
2: まちの中の居場所　　さまざまな人をそのまま受容する場を持つ。
3: 社会システムの変革　　1、2が広まると、社会全体が変わる。
1で個人の意識を変容させ、じわりじわりと3を目指す。これがジネンカフェ・プロジェクトの目標です。

名古屋市昭和区小桜町 3-11 羽ね屋敷 1 階／ TEL：052-733-5955
営業時間：土 11:00〜18:00 ／休：祝／ HP：www.crayon-box.jp

com-cafe 三八屋

飲食　交流　まちづくり　高齢者　若者

まちづくりの基地・志民活動

オーナーの星野博さんは、志の民の活動を「志民活動」と唱えます。三八屋は、2001年3月8日に4坪のスペースで、3と8の付く日限定で、珈琲店として始まりました。まちづくり活動を展開する中で「NPO法人志民連いちのみや」が立ち上がり、さらに開かれた場所が必要になります。そこでコミュニティカフェとして、築50年になる建物を全面改修し「com-cafe三八屋」が2010年8月31日に産み出されます。ここには8つの特徴があって、 ①多世代が集えるカフェ ②立ち飲みコーナー ③ライブスペース ④ライブラリースペース ⑤シェアリングテーブルで講座やミーティング ⑥地ビール醸造所 ⑦志民連の本部 ⑧レンタルスペース、と多彩な活動が出来る「まちづくりの基地」になっていて、尾張一宮のまちづくりを志民が支えています。

仲間と誓い合った、地ビールの復活

138 ICHINOMIYA BREWERY
Since 2011
一宮ブルワリー

一宮には、大きな繊維会社が始めた「尾張ブルワリー」という地ビールがありました。情勢が変化する中で、幕を閉じることになり、そこで地ビールを造っていたビールマイスターと星野さんは、いつか復活させようと誓い合いました。その後法律も変わり、小さな醸造所での地ビール（発泡酒）に可能性が広がります。富山にある小規模醸造所も視察し、難易度が高い醸造免許の取得に成功します。三八屋の改修に合わせ醸造所を併設し「一宮ブルワリー」として、地ビールが蘇りました。日本最小の地ビール醸造所です。

【杜の宮市　まちの賑わいを取り戻せ】

かつて隆盛を誇った尾張一宮真澄田神社門前市、三八市は今では行われていません。この門前市の多様なヒト・モノ・コトの賑わいに思いを馳せ、2001 年から始まった志民によって企画開催される春のおまつりです。神社境内と商店街をつなぎ公共広場も活用して、クラフトマーケット・一宮フード屋台・ライブ・パフォーマンス・ものづくり・市民活動等、アート・文化を伝えるおまつりとして多彩です。「杜の宮市」は 1 日に 2 万人が訪れる大きなおまつりとして定着し育っています。

一宮市本町 4-1-9 ／ TEL：0586-27-4838
営業時間：12:00 ～ 23:00 ／ 休：日／ HP：www.38ya.org

ピンポンハウス

交流 サロン 相談 子ども 若者

子どもがつくっていく居場所

もともと卓球場だった建物を借りて2003年に開館しました。テーマは子どもの参画。これまで、ピンポンハウスの空間づくりや近くの公園づくり、地域の祭りなどに中高生が参画するのを応援してきました。ピンポンハウスの外壁は子ども達と一緒につくりました。ピンポンハウスでは、スタッフは近くにいても、見張っているわけではありません。子どもがやりたいことを応援します。訪れた子どもは「自分の意思」で卓球をしたり、台所を使ったり、談笑したりして自由に過ごします。最初は「中高生の居場所」として開館したのですが、最近では小学生や子育て世代の利用にも重点を置いています。まさに子どもが集まる「まちの縁側」です。

地域で子どもを育てる

お昼頃訪れると、入口の土間にはベビーカーがいっぱいあり、たくさんの親子が集まっています。もともとこの地域は子育てにとても一生懸命で、子どもを施設に預けてしまうのではなく、保育士を呼んで一緒に面倒を見る「自主保育」が行われていたそうです。３時頃になると小学生がやってきます。近くにある大きな公園ではプレーパーク活動が展開されていて、連携することで室内遊びだけでなく、外遊びまで幅広く遊び場を捉え、その拠点としてピンポンハウスが位置づけられています。子ども達はあそび場をあっちへ行ったり、こっちに来たりして遊んでいます。

【ピンポンハウスは「NPO 法人こども NPO」が運営しています。】

Let`s Challenge**　できたらいいなと思っていることありますか？　もしあるなら挑戦してみてください。失敗してもいいのです。　**Let`s Communicate　みんなに伝えたいことありますか？　もしあるなら教えてください。あなたには意見を表明したり、情報を伝える自由があります。**Let`s be Free**　だれにも安心して自信をもって主体的に生きる権利があります。わたしたち（こども NPO）は、子どもがいきいきと輝く社会の実現を願って、みんなでいっしょに歩みたいと思います。

名古屋市緑区作の山町 6 ／ TEL：052-896-4295
開館時間：平日 10:00 ～ 土 13:00 ～／休：火・日／ HP：www.kodomo-npo.or.jp

まちの縁側クニハウス

交流 サロン 相談 高齢者 子ども 障がい者

まちの縁側の原点

丹羽國子さんは、看護師として30年以上勤務したのち1999年10月自宅を改装して、誰もが気軽に立ち寄れる、地域の憩いの場「まちの縁側クニハウス」を開設しました。利用者は0歳から90歳を超えるお年寄りまで幅広く、建物には庭、こたつ、みんなで囲めるキッチン、ピアノが弾ける2階の部屋など、豊かな空間と素敵なスタッフが揃っています。スタッフは皆ボランティアで、現在は17人で運営されています。約束事として、「ここに集う人はすべて対等です。年上を敬い年下には大らかに、笑顔であいさつしましょう」と書かれています。全ての人に開かれており、そこにまちの縁側の原点を見ました。丹羽さんは、佛教大学で教授をされたことがあり、京都には「まちの学び舎ハルハウス」という自律型多目的福祉施設も開設しています。

こんなことを思っていたら、ぜひ、お気軽にお立ち寄り下さい

室内には「ほっと一息安らぐ場所が欲しい」「久しぶりに誰かと語りたくなって」「親子で遊びたい」「介護や育児の悩みを聞いて欲しい」「静かに読書や趣味をしたい」「子ども同士で遊びたい」「家事、学校、職場の悩みから開放されたい」「散歩の途中、一服したい」とありました。スタッフの方に聞いてみると、「ここへ来ることは、自分にとってのデイサービスです。また、クニハウスの日常は講座や教室を少なくしています。講座が負担で来れなくなる人もいるので、常日頃の良さとして『あえて何もしないこと』を選択しています」と話していました。

【ちゃんと食べましょう　暮らしのリズム】

丹羽さんとお話ししていると、暮らしのリズムが心地よく伝わってきました。笑顔やはつらつさ、エネルギーがほとばしっていて、心身共に健康な暮らしのリズムをどのように形づくるのか、クニハウスにはそのヒントが宿っていると感じました。発売予定の「クニさんのトリプル酒」という健康ニンニク酒や「京雑炊ハルハウス」というジャパニーズリゾットを、暮らしに役立つ食材として開発していました。さらに、「これからは自律型の福祉施設が必要です」と語る、丹羽さんの笑顔には知恵と行動力がみなぎっていました。

名古屋市千種区高見 1-8-23 ／ TEL：052-761-5234
開館時間：10:00 ～ 16:00 ／休：木・日・祝 ／ HP：www.kunihouse.jp

交流 販売 まちづくり 高齢者 子ども 障がい者

遠いなんとかより、近くの他人

昭和30～40年代、にぎやかだった刈谷の旧市街地でも「遠いなんとかより、近くの他人」という言葉が示すように、隣近所との付き合いはかなり濃いものだったそうです。「まちは弱っていくけれど”つながる力”だけはどうしても取り戻したい。自分にできることはなんだろうか。”場”と”機会”をつくろう。つながれば、支えあえるし、分けあえる」。そんな酒井まゆみさんの信念と実行力が周りを巻き込みました。通り沿いの「駄菓子屋」に小さい子どもがやってくると、奥にある「デイサービスセンター」のスタッフやおばあちゃんが気づいて出てきて交流するという仕掛け。近くに住む人たちとコミュニケーションをする場が実現しました。

まちや行政とのつながり

2009年に亡くなった酒井さんの遺志を受け継いだ野島美智子さんは、「安心・安全・防災に強いまちづくり」をテーマに公民館、地区長、婦人会、子ども会、老人会と NPO、ボランティアによるふれあい交流祭りを2009年度から開催しています。まずは互いに顔見知りの関係になり、いざという時に助け合える関係づくりの第一歩となるよう、様々なイベントを企画し、現在では300人以上の人が関わるように。例えば「わがまちのしゃべり場」という企画では市民と行政が同じ目線でまちづくりを考える機会をつくっています。その他にも、障がい者や高齢者、子ども連れの方が安心して外出できるよう、大学と協働で施設のバリアフリー調査を行い、「お出かけ便利帳」を作成しました。

【空き店舗の活用】

もともと１階が日用品雑貨店で２階以上が住宅だった建物を改装して利用しています。そのため、駄菓子屋はお店のつくりをそのまま引き継ぐかたちで実現できました。駄菓子屋と奥のデイサービスとの境界は「小さな縁側」になっており、おばあちゃんは腰掛けて子どもとお話しできます。２階以上は事務所、休憩スペース、面接室、ミニシアターとして利用しています。「施設」ではなく、まさに「住宅の一室」なので、気兼ねなく利用できる居心地の良い居場所になり得るのではないでしょうか。

刈谷市広小路 6-96-1 ／ TEL：0566-63-6803
営業時間：13:00 ～ 16:00 ／ 休：日 ／ HP：facebook.com/wagamachinoengawa

ぱるもあじおか
小牧市味岡児童館

交流 学び 相談 子ども 若者

地域で支えあう子育て

小牧市内には8カ所の児童館があり、18歳未満の児童の居場所づくりを行っています。味岡児童館は2013年1月に新築した児童館です。建設に際しては住民参加型のワークショップを開催し、子どもからも大人からもみんなの意見を集め、地域に根付いた児童館作りを目指しました。地域住民によって「味岡児童館をつくる会」が作られ、運営内容について市と話し合い、オープニングイベントなども地域が主体となって開催されました。味岡児童館の運営は「地域運営」を目指す指定管理者 NPO法人10人村が担っています。小牧市では子育て支援に力を入れており、児童館は未就学児親子にとって地域デビューをして、遊びを介して人との関わり方を学んだり、育児相談ができる場所となっています。

多世代が繋がるみんなの居場所

小学生になると子どもだけで利用でき、遊びや運動などの様々な体験を通して心身の成長を醸成する場所となります。中高生にとっては勉強をしたり音楽活動をしたり、学校でも家庭でもない居場所となります。地域の大人にとってもイベントのサポーターとして参加したり、音楽スタジオを利用したりできます。味岡児童館『ぱるもあじおか』は地域の期待や知恵のつまった、みんなで使える児童館になっており、地域ぐるみの子育てが展開されています。

【様々な体験のできる施設】

味岡児童館には館庭に築山や釜戸があり、各種講座や子どもたちの遊びの場として利用されています。2階建て施設の1階には3歳未満児親子が利用できる子育て支援室や、小学生以下の親子が利用できるパパママサロン、畳の和室・相談室、ゴロゴロしながら本が読める図書コーナー、工作や宿題ができる地域交流サロンなどがあります。2 階には学習室・集会室があり、会議を行ったり中高生が自習できます。また防音設備や楽器の設備を備えた音楽スタジオでは、音を気にすることなくバンドの演奏やダンスの練習ができます。

小牧市岩崎 557-1 ／ TEL：0568-75-4999
開館時間：9:30 ～ 17:30（中学生は 19:00 まで、高校生は 21:00 まで）／休：年末年始／ HP：www.ajioka.org

Elu-café いるカフェ

飲食 交流 まちづくり 高齢者 子ども 若者

エコビレッジの中の子育ち、ママ育ちの場

新興住宅地が広がるまちなかに“いるかビレッジ”というエコビレッジがあります。循環型の生活創造の場をめざして立ち上がったいるかビレッジには、コモンハウス、シェアハウス、“食べられる森”（畑）、デイケア施設、農業倉庫、そしてElu-café（いるカフェ）があります。Elu-caféではビレッジ内や近郊の畑の野菜を使った安心のメニューを食べることができます。また裸足でくつろげる木の温かい空間は、子育て世代にとって居心地が良いように配慮され、日常的に沢山の子連れの若い世代を中心に多世代の人が集う場になっています。店長の渡辺由紀さんは、「子どもにとって、本当の祖父母は遠くにいても、地域のおばあちゃんに出会える場だったり、つながりが次々生まれる場に育てていきたい」といいます。

子どもの冒険居場所

エコビレッジにある畑“食べられる森”は、Elu-caféを訪れた子どもにとって格好の遊び場です。穴倉や築山、池などがあるので身体を目いっぱい使って遊ぶことができ、うさぎ等の生命に触れる機会は、まちなかにあって貴重な体験です。ちょっぴり危険なことでも、重要なのは子どもが身をもって体験して学び、大人の見守りがあることです。自然学校などの親子で楽しく学べる企画等もあります。

【私からはじめるまち育て】

いるかビレッジ代表の佐野和博さんは地権者であり、事業者、運営者でもあります。「日本のすぐれた里山文化を再生したい。まちなかでも人間らしさを取り戻す自然を快復・再創造しよう」との思いからエコビレッジの勉強を始められました。自らの土地でモデルをつくり、環境も経済も循環する地域社会を他地域にも広めていきたいと考えています。「まずはやってみる」と自らが動き出すことで、志熱い若者との出会い等に恵まれ、現在のような複合的な活動につながっています。

豊橋市牛川町東側 63 ／ TEL：090-6611-1615
営業時間：9:00 ～ 16:00 ／休：水／ HP：elucafe.web.fc2.com

Barcafe Buono

飲食　就労　まちづくり　高齢者　障がい者　若者

福祉とまちづくりが交わるところ

地域密着のNPO法人まちのエキスパネットが運営するコミュニティカフェです。代表の治郎丸慶子さんは、まちづくりと福祉の活動に精力的に取り組んでいます。「Buonoは、福祉とまちづくりが交わるところとして、誰もが入りやすく立ち寄れる空間」「学校関係・NPO関係・音楽関係をつなぐことができるところ」、また、「高蔵寺駅に賑わいの灯をともしたかった」と紹介してくださいました。Buonoには、オリジナル菓子、地域情報・産直野菜があり安心お値打ちで大人気。土日はライブスペースにもなり、イベントもあります。展示コーナーでは、中部大学の建築学科とコラボして、お店の外装提案の投票も行われていました。まるでカフェがまち中のようになっています。

ラズベリージョブズ

Buonoの中には、地域活動支援センター「ラズベリージョブズ」という障がい者の就労支援施設が併設されていて、オリジナル菓子を作っています。また、独自のファームもあり、周辺の農地でラズベリーなども栽培しています。NPOでは他に児童デイサービスの運営もしていて、子どもの頃から就労段階まで、障がいのある方が地域社会で暮らせる環境づくりを目指しています。まさに地域に根付いた共生の活動で、利用者との信頼関係があっての、気持ちの良い開かれた場です。

【NPO 法人まちのエキスパネット】

高蔵寺ニュータウンとその周辺地域を、誰もが「暮らしたいまち」に再生させたいと考えて設立。「まちづくり支援事業」「障がい児者就労支援事業」「広報誌発行事業」を三本柱に、この地域に合った市民参加の活動を推し進め、にぎわいを生み出し、共に支えあい、人や団体のネットワークを広げていきたいと考えています。特に障がい児者の福祉に力を入れ、社会との共生を目指した児童デイサービスの開設、将来の就労を見据えたカフェ経営とオリジナル菓子製作および定期市の開催などを行っています。

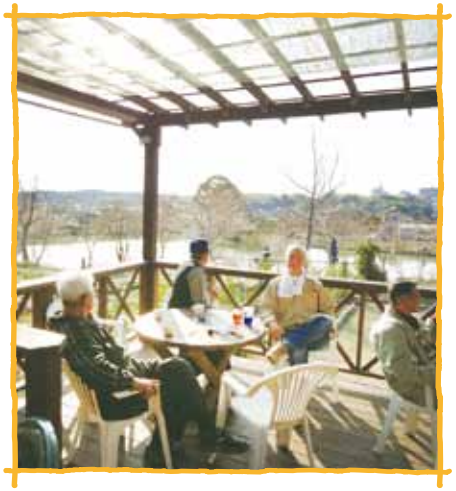
春日井市高蔵寺町北 3-12-4 青山駅前ビル 1 階／ TEL：090-3838-1662
営業時間：9:30 ～ 17:00 ／休：日・土は不定／ HP：wb.commufa.jp/i_l_live

ぼだい樹

飲食 交流 芸術 高齢者 子ども 若者

池のほとりの身近なリゾート

小牧市大草の農村里山の池の畔に「ぼだい樹」はあります。ハーブファームが周辺に耕され、建物はログハウスです。1997年、梶田ご夫妻はエコ・ファーマーズ・カフェを始めました。「続けることは大変だけど、笑い声や笑顔が有り難い」と、お母さんはセンスとユーモアで人を結ぶハーブマイスター、お菓子作りも達人。お父さんは技と知恵で地域を育てる、まちの守り人。お二人が育ててきたのは、花と緑と人の縁。里山では天候や農作物が旬の話題。最近は若い人から団塊世代まで、しっかり農業、退職後農業、ちょっとだけ農業など様々なファーマーがぼだい樹へ足を運びます。梶田夫妻からは自然の恵みを愛でる農業指導がついてきます。



地域密着の文化情報発信地

ぼだい樹マルシェは産直野菜の販売コーナーになっていて朝から人気です。ぼだい樹ギャラリーとして、室内の壁面には地元芸術家の作品が展示されています。クラフトマーケットも人気の企画で季節ごとに催されています。池のほとりに咲く春の桜は壮観で、桜まつりには、ステージが組まれ宴が繰り広げられます。夏はビアテラスに、秋には田んぼでアート、バンブーインスタレーションの本部にもなります。冬には餅つきモーニングも開催し、屋根裏部屋では文化教室を開催しています。ぼだい樹は地域文化づくりの拠点になっています。

【バンブーインスタレーション in おおくさ】

稲刈り後の田んぼに、竹を使った屋外環境造形展が八田川沿いで毎年開催されています。作家は多様で、芸術家から中学生、幼稚園児、地域の大人達まで、秋になると竹を周辺の山から切り出し、インスタレーション作品を創りあげます。11 月 3 日には「竹のおまつり・バンブーロックフェス」が開催され、地域とアートとの交流として 20 年続いています。それによって、まち興しをコツコツ続けてきているそうで、秋の大草地区は田んぼが美術館になります。主催はおおくさ探険隊、代表は梶田さんが務めます。

小牧市大草小牧市大草 2503-3 ／ TEL：0568-47-0268
営業時間：8:00 ～ 18:00 ／ 休：水・第 2 木

Community Salon わや食堂

飲食 サロン まちづくり 高齢者 障がい者 若者

地域で自分らしく暮らせる喜び

「地域で人が当たり前に暮らすこと。暮らしの中の“楽しみ”“おもしろさ”を追究していくこと」そんな当たり前の福祉を追求したひとつのかたちが「わや食堂」です。福祉事業者であるマザーズの営むグループホームとあんしん賃貸住宅に併設され、高齢・障がい者の方の地域に根づいた生活を支援するために、わや食堂は地域・円頓寺商店街とつながる要の存在です。地域で高齢・障がい者の方が、散歩をし、買物をする、当たり前のことが実は難しい閉鎖的福祉イメージのある社会にあって、信頼関係づくりの場でもあるのです。ランチは健康的でお値打ちと評判で、近くで働く人も住む人も訪れます。そんな場を切盛りする25歳の川戸秀昭店長をはじめとした若者たちや、福祉サービスの利用者であるおじいちゃんやおばあちゃんたちが配膳等に活躍しています。店長は利用者の方たちの状態を見て、その人のできることを最大限生かす場をつくっています。

農業という喜びを分かち合う

わや食堂の料理には近郊にある自社農園の野菜が使われ、軒先で野菜の販売も行っています。時には福祉サービスの利用者が収穫や袋詰め、草取りなどの農業の仕事に携ります。「認知症の方も農業に関わる事で生き生きとしてくる」とのこと。農園にも生き甲斐につながる役割があります。地域にとっても、採れた喜びを分かちあえる食のサービス・野菜販売があることは、暮らしやすさにつながっています。

【地域の交流拠点として】

わや食堂はとても目をひく“Public Toilet”のサインを掲げて、地域に多目的トイレを開放しています。車いすの仲間のいる取材班は、「円頓寺商店街なら安心して遊びに来れますね」と思ったのでした。「“世代や障害などあらゆる違いを超えたコミュニケーションがうまれる町”でこそ、1人1人が“自分らしく”いれる」という信条はこんな所にも表れています。バリアフリーでおしゃれな空間は、利用者も地域の人も分け隔てなく、当たり前に一緒に入れる優しい雰囲気をつくっています。

名古屋市西区那古野 1-20-30 ／ TEL：052-414-4367
営業時間：11:30 ～ 14:00(ランチ)14:00 ～ 18:00（カフェ）／休：日

窯のひろば

飲食 まちづくり 相談 高齢者 子ども 障がい者

囲炉裏を囲んでつながる場

せと銀座通り商店街に位置する窯のひろばは、やおよろずのヒト・モノ・コトがつながる地域交流拠点となっています。初めて会った人同士もカフェの囲炉裏を囲めば不思議と会話がはずみます。地元の安心食材を使った野菜中心の健康ランチは大変人気です。地域の人の健康を日常的に支える糧であるように、というポリシーはランチ430円という価格設定に見る事ができます。その他にもちょっとした困り事の相談に応じてくれる便利屋、貸しスペースの提供、野菜市の開催、イベント開催等が行われています。「安心して暮らせるまちにするために人と人をつなぐ場所をつくりたい」と、服部悦子さんと弓谷由子さんらの立ち上げた NPO法人エム・トゥ・エムが、日々担い手となる仲間を巻きこみ、増やしながら運営しています。

人の心が晴れるとまちが元気になる

窯のひろばは地域の人のよろず相談の場になっています。相談があるとまず一緒に悩むことから始まります。スタッフは「つなぐ」経験を生かして、解決できそうな人・団体・組織に声をかけます。例えば、訪れた外国人居住者の悩みに耳を傾けたことが、毎年開催して8年を迎える「外国人無料健康診断」の取り組みにつながっています。こうした取り組みから、「せと・おせっかいプロジェクト実行委員会」が立ちあがり、系統的に相談を受けれる体制も整ってきました。悩んでいる人の心が晴れるとともに、小さな悩みも地域課題の解決の端緒としてきめ細やかに対応していくセンスとスキルが光ります。

【未完成であり続ける場】

服部さんは、仲間を巻きこむコツは「ゼロから共につくること」と言います。なんと窯のひろばも手作りで建築しました。運営においてもサービスする側と受ける側の隔てはなく、ワンコミュニティで手作りし続けているという印象。「常に自由で“未完成”であり続けることなのよ（理事・田中美代子さん）」。自分の生き甲斐として関わることが、地域に生きる責任を果たすことにもつながる、ここはそんな場です。

瀬戸市朝日町 11 ／ TEL：0561-85-6282
営業時間：10:30～16:00（日 15:00 まで）／ 休：火・水／ HP：www.kamanohiroba.net

マイルポスト

飲食 交流 サロン 高齢者 子ども 障がい者

地産地消も大きなテーマ。
「瀬戸地愛豚」を使った
せとカツサンドと
瀬戸豚ライスバーガーが
オススメ！

共にレコードに耳を傾け、歌い、笑って、心が晴れる

若い人の出店やイベントなどの新しい息吹と地域の方々の頑張りで、元気を取り戻しているせと銀座通り商店街の重要な拠点として、マイルポストはあります。優しい木の戸を開ければ、地域の方々が持ち寄ったレコードの音色。週に１回の「歌声喫茶」や、子育て支援スペースも人気です。音楽を聴くのも歌うのも話すのも、そこで出会った人と「共に」できる場所です。壁には地域の子どもの作品が並ぶなど、表現発信の場でもあります。「生まれてから生涯を終えるまで、安心して楽しく生きられる地域社会を目指しているんです」というのが、オーナーの大竹路恵さんの思いです。

【思いを共有する仲間たち】

地域が名古屋学院大学経済学部と連携し、学生による運営で始まったマイルポストを大竹さんが引き継いだのは、2007 年9 月のことです。「若くしてシングルマザーになり、地域に支えられた経験があるから」とのこと。おいしい飲食を提供する店長の豊岡さん、地域とのつなぎや実務面をサポートする安栖さんら、多彩な仲間と共に運営しています。

瀬戸市朝日町 28 ／ TEL：0561-82-5055 ／営業時間：10:00 ～ 18:00 ／ 休：水・木 ／ HP：www.en-sakura.jp

里まちカフェ めぐみえん

飲食 交流 サロン 高齢者 障がい者 若者

産直野菜をつかった
人気のランチは野菜たっぷり。
コーヒーは、「隠れ家ギャラリーえん」
の自家焙煎コーヒーで、
やさしく深い味わい。

商店街に、里+まち→カフェ

めぐみえんは、産直野菜販売、玄米ごはん、独自焙煎珈琲、若者・障がい者・高齢者支援のコミュニティカフェです。「NPO法人ライフステーション・あいち」の中川建彦さんが中心に、無農薬無肥料野菜の「めぐみ農場」、「玄米おむすびの会」、「隠れ家ギャラリーえん」の共同運営として2014年から本格的に立ち上げました。中に入ると販売コーナーでは美味しい野菜が出迎えてくれます。立ち上げの動機は「人は昔はみんなで助け合って、自然の恵みを分かち合って生きていた。都会の中でもそういう場所がほしかった」とのことです。コンソーシアムでのカフェ運営には4者の特色が出ていて商店街が賑やかにしています。

【心に寄り添い活躍の場を】

中川さんは退職後、若者支援と訪問介護の事業をしており、文部科学省から先駆的な活動で表彰もされています。若者支援には根気が必要で、つかず離れずで寄り添い、人と人の信頼関係に繋げていきます。スタッフにはボランティアもいて「このカフェに来ることが楽しい」と笑顔がめぐみえんに溢れていました。

名古屋市北区柳原 4-2-2 ／ TEL：052-934-7850 ／営業時間：10:00 ～ 18:00 ／休：月 HP：ameblo.jp/satomaticafe

community cafe Fun Factory

飲食 交流 サロン 高齢者 子ども 若者

交流がテーマの
コミュニティカフェなので、
イベントの利用でも貸し切りにはせず、
誰でも参加できるように
しています。

シェアできる公民館的なカフェ

建築家の井上貴仁さんが、「良い建築は地域に根付いている部分が大きいため、地域のことを考えずにはいられない。豊川らしいコミュニティのかたちはあるのだろうか」という問いからコミュニティカフェを開こうと動き出したのが2010年。翌年に東日本大震災が発生。井上さんが被災地に行くと、何も無くなったところにプレハブ小屋が建ち、そこでは展示会をしたり、おばあちゃん達が編み物を楽しんだり、子どもが遊んでいたり、最終的にはそこがお茶を飲む場所になっていました。「これこそ、やりたかったコミュニティカフェだ」。そこで行われる様々な活動と、気持ちよく過ごせる空間が、人のつながりや交流を促進しているのです。

【建築家が開くコミュニティカフェ】

インテリアに関する本が多かったり、建築の模型が飾ってあったり、必ずカフェのパンフレットの背面には建築のパンフレットをセットで入れ、建築が本業だということをアピールしています。単にモデルハウスとするよりも、コミュニティカフェとしてまちに開いている方が、こういうお店に興味を持ってもらったり、新しい仲間ができて夢が広がるのです。

豊川市末広通 3-16-1 ／ TEL：0533-89-8288 ／営業時間：10:00 ～ 16:00（土曜日 14:00 ～ 23:00）／休：木・日・祝／ HP：mitaki.net/funfactory

さくらん坊

飲食 交流 就労 高齢者 子ども 障がい者

人気のメニューは
まごころ込めて作られた
日替わりランチで
ワンコイン 500 円。
ブルーベリーソースの
パンケーキもお勧めです。

市役所にフィットした障がい者就労支援カフェ

岩倉市役所の中にある喫茶店は、社会福祉法人尾北しらゆり福祉会が運営しており、精神障がい者の就労支援の場となっています。大きな窓の明るいカフェで、皆さんイキイキと働いています。実は、見えないところに障がい者をサポートする工夫があります。例えば、ランチのメニュー数を減らして分かりやすくする、得意なことをお願いするなどです。地元のお母さん達が手伝って健康志向の日替わりランチを提供しており、市の職員さんや議員さんが常連客となることで、障がい者の働く環境を日常的に実感してもらえる場になっています。

【さくらん坊が掲げる 2 つの目標】

2つの目標があり、1つ目は「近くに住む子育てママさんたちがもっと利用してくれるようなお店にする」ことです。岩倉に暮らすたくさんのママさんのために、ちょっと寄っておしゃべりする場所として定着させていきます。2つ目は「ここでの経験を活かして外でも活躍できるようになって欲しい」ということです。生きがいを見出し、地域で自立した生活が送れるように支援していきます。

岩倉市栄町 1-86 岩倉市役所 2 階／ TEL：0587-38-3811 ／営業時間：9:00 ～ 17:00 ／休：土・日・祝

Parlwr パルル

飲食 交流 芸術 高齢者 子ども 若者

パルルはまちである

1981年にギャラリーとしてスタート。当時の運営者である新見永治さんの「もっと自由に使えるようにしたい」という思いから、ライブやパフォーマンス、飲食もできるようにカスタマイズされてきました。2010年のあいちトリエンナーレに関わることでパルルに全力投球できなくなったこと、時の首相が転々と変わっていった状況などをきっかけに、「リーダーがいない経営」を考えるようになったそうです。2011年から新たな仕組みづくりを話し合い、2012年に「パルルはまちである」という理念が出来ました。利用者は「住民」と呼ばれ、自由に利用できるかわりに月1000円の住民税を払うことでパルルを支え、facebookを通じて企画や運営を話し合っています。

カフェイベント、ライブ、トークショー、勉強会、パーティなどが行われる多目的スペースとして使われています。

【しくみの実験室：住民が変わればルールも変わる】

新見さんは、初めて利用する住民に「仕組みがよくわからない」と言われた時に「仕組みの実験室だ」と説明しています。リーダーがいれば簡単なことも、ルールは要るのか、どんなルールが必要なのかと毎回考えることで、リーダーに頼らず、やりたいことを実現するという状態を目指しているそうです。

名古屋市中区新栄 2-2-19 ／ TEL：052-262-3629 ／ 営業時間：不定 ／ 休：不定／ HP：www.parlwr.net

空色曲玉 そらいろまがたま

飲食 交流 芸術 高齢者 子ども 若者

届いた旬の野菜を見て、メニューを考えます。旬のものをおいしく調理する家庭料理教室も行っています。

身体に健やかな食を囲む自由空間

食へのこだわりが、たくさんの人をつないできました。オーガニックカフェ「空色曲玉」のシェフ谷陽子さんは、お子さんのアトピーがきっかけで、ベジタリアンの料理をつくり続けて10年になります。自分の子どもに安心して食べさせたいものを突き詰めることは、「生産者と食べる人の健康のつながりに携ること」という谷さんのもとには、旬のおいしい野菜が届きます。農薬・化学肥料0栽培で木曽川流域自給を目指す「くらしを耕す会」や、朝市村のオーガニック野菜を使っています。優しい食卓を包み込む空間もまた、築百年以上の米蔵に少しずつ手を入れて改装していった優しい雰囲気をつくっています。

【表現・感動を分かち合えるところ】

天井の高い空間はギャラリーにもぴったりです。取材の日は障がいをもった人の絵画展「めずらしい動物の園」の会期中でした（認定 NPO 法人ポパイによる MO-YA-CO アートプロジェクト）。ギャラリー、ライブや映画上映会、料理とのコラボレーション企画など、多様な人たちの表現の場・交流拠点にもなっています。

名古屋市中区新栄3-16-21 ／ TEL：052-251-6949 ／営業時間：10:00〜19:00／休：日・月・火 ／ HP：www.soratama.com
※時間外でもイベント等相談に応じます。

かがよひ

展示即売コーナーもあって、
作品展も可能。募集は随時。
取材の日には帽子展が
開催されていて、
カラフルで個性的な帽子が
かがよひを彩っていました。

手芸しながらコミュニティカフェ

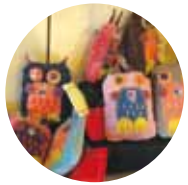
岸ご夫妻の「おさや糸店」という手芸用品店には、文化教室と体験型手芸カフェ「かがよひ」があります。体験型のカフェとは、お茶をしながら手芸が出来るカフェです。教室だと敷居が高いと言う方も気軽に参加できるところが「かがよひ」の良いところです。ものづくりは心をリラックスさせる効果があります。時には、「子育てからのリハビリカフェ」としても活用できます。「かがよひ」の紹介にはこうあります。「作品展、イベント、ライブ、講座など何でもご相談下さい。『かがよひは誰もが主役』になれ、だれもが輝く、そんなスペース。イベントに参加しない方も、作品をご覧になったり、飲み物を飲んでいただけます」。ここに来ると創作意欲が湧いてきます。

【かがよひは多彩】

お昼は「ソーイングカフェ」「ビーズジュエリーカフェ」「刺繍カフェ」「絵手紙」「ワンデイニット」等の主婦向け企画がありますが、夜には「魅惑の夜のニットバー」などＯＬ向け企画や、「西洋音楽夜話」「ブルース夜咄」等の夜学型企画もあります。他にも、「珈琲ぼん」があり、煎れたてのコーヒーや自然農法野菜が販売されています。

岩倉市昭和町 1-23 おさや糸店 2 階／ TEL：090-3562-0479／営業時間：10:00 ～／ 休：不定／ HP：kagayohi.exblog.jp

あいちかすがいっこ



ちょこかん専属の
クラフト作家、
ネンネンマさんの作品は
秀逸なほほえみを
発しています。

あいちかすがいっこは、子育て支援団体

内田朋代さんは、２人の子育てをしながら、セレクトショップ「ちょこかん」の仕事と、地域の子育て広場「あいちかすがいっこ」を「ちょこかん」の２階に作り仲間と自主運営しています。朋代さんは、「子育て情報はネットに溢れているが、身近な情報として整理されていない。私たちが、ママ目線でわかりやすく編集し直して発信するわ」と、地域コミュニティのハブ役を買って出ています。現在、ＮＰＯ法人の申請準備中とのこと。「ママの文化祭」という、ママによるママのための大きなイベントも企画中で、ママの「好き・得意・経験」ブースや、親子スナップ＆ワークショップなど盛りだくさんの文化祭になりそうです。

【ちょこかんは、遊び心があふれるセレクトショップ】

朋代さんのご主人の「ゴリさん」は店主でありデザイナー。エイジングワークによって味付けされているオモチャは絶妙なレトロ感が出ていました。また、チャイルドマインダーの資格を持っていて、子育て施設ではお父さん講座の講師も。お店にはこだわりの一点モノが多く並んでいます。専属デザイナーのクラフトも多数有り、お宝で溢れています。お店ではお絵描き教室も開いています。

春日井市鳥居松町 2-238 ／ TEL：0568-89-0662 ／営業時間：11:00 ～ 18:00 ／ 休：木・日／ HP：www.chocokan.jpz

FUTURO cafe+dining フツロ

飲食 情報 芸術 子ども 若者

散歩道のお友達の家

オーナーのmakiさんは元有名ブランドのデザイナーで、東京での活動に区切りを付けUターン、地元の春日井を素敵なまちにしようと、「私の部屋」感覚のカフェFUTUROを2003年に開設しました。空間も音楽も食もお客さんもセンシティブ。未来空間FUTUROをコンセプトに、まちの人々と様々な出会いを積み重ねています。2012年に新築移転した際に、散歩道沿いの休憩処になる敷地を探し、内津川に面して新FUTUROを作りました。お客さんは、散歩で寄ってお茶して、お友達のお家にいる感覚になれる「くつろぎコミュニティカフェ」です。

春日井市出川町 2-6-1／TEL：0568-29-7990／営業時間：11:30 ～ 18:00（土・日・祝～22:00）／休：火／HP：interq.or.jp/dog/dogstar

隠れ家ギャラリー えん

飲食 交流 まちづくり 高齢者 子ども

まちに溶け込む古民家カフェ

誰も使っていない古民家を活用してほしいという所有者の思いと、開設した服部浩太郎さんの気持ちが重なったことがきっかけとなり、10 年程前に開かれた「まちの縁側」です。庭を通って玄関に行き、靴を脱いで上がるとギャラリー空間があり、奥にカフェ、その奥にイベントスペースがあります。内部は畳敷きになっていて、同じ空間にいる人がなんだか身近に感じられます。「コミュニティカフェとは言わないようにしている」とのこと。まちの縁側としていろいろな人が気軽にやって来れるよう、コミュニティを押し付けない気遣いがなされていました。

名古屋市南区呼続 1-10-23 ／ TEL：052-822-7088 ／営業時間：10:00 ～ 18:00 ／休：月／ HP：www.kakurega-en.com

丸の内カフェ

飲食 情報 交流 高齢者 障がい者 若者

まちの人達のランドマーク

オーナーの大野由紀さんは縁結びの達人。ビジネス・人・コトなどあらゆるモノをつなぐ“ムスビスト”です。異業種交流会や文化講座も、人の縁により店で催しています。2002年1月に丸の内にカフェを開業し、地域に愛されるお店に育っています。細腕でお店をマネジメントしながら、まちづくりにも積極的に参加。「長者町ゑびす祭り」では、地域の祭りを盛り上げる肝っ玉姉さん。丸の内カフェは桜通と長者町通の角にあり一目でわかるため、待ち合わせのカフェとして利用される人も多くいます。ビュッフェスタイルのランチも評判のお店。

名古屋市中区丸の内 2-19-19 ／ TEL：052-232-6020 ／営業時間：11:30 ～ 19:00 ／休：不定

チャンティ

飲食 交流 サロン 高齢者 子ども 若者

国際的なコミュニティカフェ

ＮＰＯ法人シェイクハンズが運営するコミュニティカフェは、犬山城の見える城下町の中にあります。代表の松本里美さんは市民活動をする中で、国際理解にミッションを感じて、「茶運亭」としてフェアトレードショップをオープンしました。そこへカフェが加わり、ワンデイシェフなど魅力的なアイデアもあって人気のお店に。今ではまちづくりと多文化共生の拠点になっています。日替わりシェフの中には中国の方やペールの方もいて、多国籍料理が味わえる日もあります。人の繋がりの中で、松本さん達は犬山のまちと共に、地域に暮らす外国籍の方々を多方面で支えています。

犬山市西古券 23 ／ TEL：0568-61-0971 ／営業時間：11:30～17:00 ／休：木／ HP：shake-hands.jp

あっとわん

情報 交流 相談 子ども 障がい者

子育てに向き合えるところ

代表の河野弓子さんは、子育て支援とまちづくりの「NPO 法人あっとわん」を運営しています。地域で活動をしていきたい人を増やしたいと「ソーシャルプランナー育成支援講座」を開設し人気の企画に。子どもとどう向き合っていいかと悩むお母さんの相談には、お母さんと子どもの目線を大切にしながら悩みや不安を聞き、子育てに向き合えるよう気持ちを支える支援をしています。子育ては人生にとって大切なひとときです。お母さんの子育ての力を信じて寄り添い支えていくのが“あっとわん流”子育ての相談対応です。

春日井市中央台1-2-2 南館B1 ／ TEL：0568-92-5481 ／ 営業時間：9:30～17:00 ／ 休：土・日・祝 ／ HP：npo-atone.jimdo.com

サンサロ＊サロン

交流 サロン 子ども 障がい者 若者

三叉路にある「まちのたまり場」

細い路地の三叉路に面して建つ、コンクリート打ち放しのビル１階にあるコミュニティスペースは、「まちのたまり場」です。文化・福祉のサロンとして、使いたい時に使う、誰にも気兼ねすることなくルーズに使える場所です。ミーティングやワークショップの会場としたり、フライヤーの設置やグッズ販売を行ったりするインフォショップとして利用されています。運営は 3 人のユニットで、まち・住まいなどを手がけるデザイナーの藤原はづきさん、生きづらい若者と向き合う社会学研究者川北稔先生、障害福祉分野で活躍する元心理学大学院生のタッグで社会活動を行っています。

名古屋市中村区則武 2-32-12 ／ TEL：090-3069-1608 ／ 営業時間：不定／ 休：不定 ／ HP：nagonya.exblog.jp

ひょうたんカフェ

飲食 就労 販売 高齢者 障がい者 若者

施設の入口だと思わせないカフェ

住宅地に小さなウッドデッキを張り出し、ドーナツを売っているカフェがあります。障がい者を支援するNPO 法人ひょうたんカフェが運営するデイサービスセンターは、もともと倉庫だった建物を改修し、さをり織のアトリエ・コミュニティスペース・豆腐店・ひと坪カフェが一体となった、障がい者が働く場です。「誰もが気軽に集まれる場をつくろう」という思いから NPO の名前に「カフェ」という言葉が入っていますが、実際にカフェができたのは 2013 年のこと。それまでの８年間にさをり織や豆腐の製造・販売を通して地域とのつながりを形成してきたことで地域に根付いてきました。

名古屋市中村区砂田町 2-15 ／ TEL：052-485-4535 ／営業時間：8:30 ～ 17:00 ／ 休：日・祝 ／ HP：hyoutan-cafe.jp

Chou Chou シュシュ

情報 交流 サロン 高齢者 子ども

過ごし方はそれぞれ

オーナーの玉腰明子さんは、「みんなが集い笑顔がつながる、まちのたまり場が欲しかった」と言います。カフェ、レンタルルームとして、多世代が利用できる自由空間があります。「居心地の良い場所になるように」との思いから2013年10月にシュシュを開設しました。「みんなのサロン」として、ミシンカフェ・ゆびヨガ・顔ヨガ・栄養相談、ベビーマッサージ・オラクルカード・ハワイアンマッサージ・英会話・べっぴん体操・ネイルなど多彩な教室もあります。向かえに幼稚園があり、フリーマーケットも開催することによって、地域のママの居場所になっています。

名古屋市昭和区円上町 19-9 ／ TEL：090-6573-4699 ／ 営業時間：火・水 10:00～17:00 ／ HP：chou2.biz

神奈川県版 発行の思い

コミュニティカフェの実践者の一人として

特定非営利活動法人 ぐらす・かわさき
理事・事務局長
田代 美香
044-872-9795

子育て、介護から環境、平和まで…地域で直面するいろいろな課題を自分たちの力で解決しようと試みる人々を、身近で見てきた私たちにとって、その活動をいかに持続可能にするかということは、常に大きな関心事でした。彼らに「コミュニティビジネス」というやり方を提案すべく、起業相談を行ってきた経験を通じて見えてきたのは、多くの方が、「場」を設け、人と人をつなぎたいと考えているということです。

2012年、「相談に乗るだけでなく、実践者でありたい」と考えていた私たちは、“コミュニティカフェ　メサ・グランデ”をオープンしました。地産地消の小さな八百屋と、食べ方を提案するレストランサービス、コミュニティビジネスのノウハウを学べる講座や、飲食サービスを開業したい人向けのワンデイ・シェフなど、多様な顔を持つお店です。

このたび、全国のコミュニティカフェの事例を目にしたことで、いかに多くの実践者が善戦しているか、勇気づけられるとともに、新しいネットワークを築くことができました。気づけばこれこそが、コミュニティカフェを志す人に最も必要なことではないかと感じています。

この冊子を手に取った方には、ぜひ、気軽にお店を訪ねてみていただきたいと思います。情熱的でオープンな店主の皆さんの考えに触れたり、近くに住んでいながら出会う機会のなかったいろいろな人とのつながりが生まれたりすることで、日々の暮らしがより楽しくなり、貴方も何かを始めてみたくなるかもしれませんよ。

石川県版 発行の思い

金沢の歴史が育む人と人をつなぐ場

特定非営利活動法人 金沢観光創造会議
代表理事
加茂谷 慎治
076-205-6202

まちなかを網の目のように流れる用水。わきに設けられた洗い場はかつて、洗いものをする住民が集う場でした。城下町の小径（こみち）を抜けると突然、広見（ひろみ）と呼ばれる空間が広がります。藩政期、外敵を待ち伏せるために築かれたとも、火災の延焼を防ぐために設けられたともいわれる空間は、住民たちが輪を作り、話に花を咲かせた場でもあったのです。金沢は歴史の中で、地域コミュニティを育み、近代以降は公民館、善隣館がコミュニティの拠点となってきました。

東日本大震災を経験した私たちは、「きずな」「つながり」を見直すようになります。気軽に人とのつながりを確認できる場を求める中で、コミュニティカフェが生まれてきたように思われます。

米国の都市経済学者、リチャード・フロリダは「創造性は居心地のよい場所を求める」と指摘します。居心地のよい場所とは、「人に出会える場所」「文化に出会える場所」「開放的な場所」「安心感のある場所」であり、こうした場所が人々の欲求を満たすのであるとも説きます。まさにコミュニティカフェこそ、こうした理想の場所ではないでしょうか。ガイドブックを参考に、理想の場所を探し出してみてください。

ご協力いただいたカフェ関係者、全国ネットワーク構築に尽力いただいた関係団体、公益社団法人長寿社会文化協会の皆様に御礼申し上げます。

京都府版 発行の思い

京都の“居場所”と共にありたい

特定非営利活動法人 つながるKYOTOプロジェクト
理事長
小辻 寿規
050-3593-6615

私たち、つながるKYOTOプロジェクトは、京都市における“まちの居場所（誰もが気軽に利用でき、ゆるやかなつながりを持つことができる場所。まちの縁側、サロン、コミュニティカフェともいう）”の開設や運営のための中間支援組織として、大学教員や大学生をはじめ、運営者自身や地域住民などが中心となって2008年に結成されました。

これまで私たちは、まちの居場所の運営者と利用者のマッチングのためのホームページやガイドブックの作成のほか、実際の施設をめぐるツアーや体験イベントを行ってきました。また、こうした居場所の効果を探るため、さまざまな調査や研究も行っています。

その結果、居場所には、人々を孤立させないための一定の効果があること、まちづくりの一翼を担う働きがあることが明らかとなりました。しかし、それと同時に、居場所同士にもつながりが必要であり、そのネットワーク作りが非常に重要であるということを痛感しました。

私たちはこれまで、京都市を中心に活動を続けてきましたが、今回WAC（長寿社会文化協会）の呼びかけにより、全国で同様の活動をされている皆さま方とともに、ガイドブックの作成や開設支援講座など、多方面からまちの居場所を支援する機会に恵まれました。私たち自身も、3年前に独自で京都市内のガイドブックを作った経験がありましたが、この数年間で京都にはさらに多くの居場所が誕生しており、今回の取材は私たちにとってもその変化と熱気を改めて感じることのできる楽しい旅となりました。

今後も、今のこの活動をベースに京都のまちの居場所とともにあるNPOであり続けたいと考えています。

編集後記

編集メンバーのひとり、大学院生の中村です。今回のガイドブック作成はとても印象的でした。まず、いろいろな世代の人にお世話になりました。取材させていただいた方々、その場にいた高齢者や子どもたち、WACの方々、まちの縁側育くみ隊　延藤先生、坪井先生（50歳建築家・児童館館長）、名畑さん（かわいくて厳しいお姉さん）、あいざわさん（プロのデザイナー）などなど。いろんな人がいるんだなと、世間の広さを実感しました。取材に協力していただいた方からは、コミュニティカフェへの思い、運営の楽しみと大変さ、今後の目標など多くのことを語っていただきました。また、編集委員からは仕事の厳しさを学びました。貴重な経験になりました。そして、私たち編集委員は、今回の取材でいくつもの印象的な言葉に出会いました。「事務所を構えるのではない。まちとの接点としてのコミュニティカフェ」「採算合わないけど、生き甲斐だから仕方がない」「所有しているからこそ、ルーズに使える」「ひとりひとりの力を引き出したい」「地球の裏側のことまで想像しながら、自分の地域のことを考えるような人が増えたらいいな」実践者の発想、経験に基づく言葉、コミュニティカフェに対する捉え方は多様で、延藤先生が掲げる12カ条のような思いを、それぞれの人が持っていました。人生を豊かにしていくためのコミュニティカフェが、もっと広まって欲しいと思います。（中村）

訪ねてみよう
あなたの「まちの縁側・居場所」
コミュニティカフェガイドブック　愛知県版

発行
特定非営利活動法人 まちの縁側育くみ隊
〒460-0003 名古屋市中区錦2-13-1 宮本ビル4階「まちの会所」内
Tel 052-201-9878　E-mail info@engawa.ne.jp
http://engawa.ne.jp

公益社団法人 長寿社会文化協会
〒105-0011 東京都港区芝公園2-6-8 日本女子会館1階
Tel 03-5405-1501　E-mail com-cafe@wac.or.jp
http://blog.canpan.info/com-cafe

発行日　2014年2月23日
編集委員　延藤安弘　坪井俊和　名畑恵　中村友亮
アートデレクション・デザイン　（株）エフェクト　あいざわけいこ